

加賀市道路施設長寿命化修繕計画

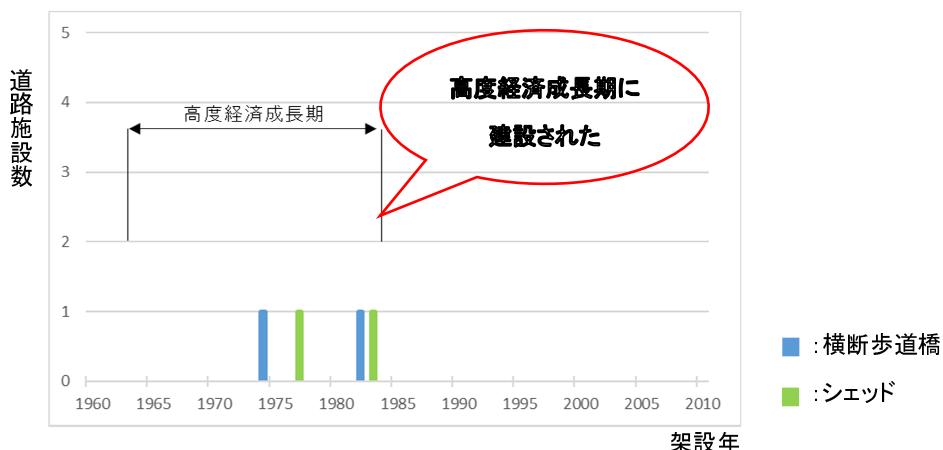
令和7年10月

加賀市建設部土木課

【1. 長寿命化修繕計画の背景と目的】

- 加賀市が管理する道路施設は、令和7年10月現在、横断歩道橋2橋、シェッド2橋あり、このうち建設後50年を経過した施設は、0橋です。
- 20年後には、全4橋が達し、急速に高齢化した施設が増加します。
- これまでの事後保全型の修繕から、早期に損傷を見つけて対処する予防保全型の維持管理に転換し、道路施設の長寿命化によるライフサイクルコストの縮減及び維持・更新費の平準化を図り、道路交通網の安全・安心を確保していきます。

道路施設架設年次分布



【2. 長寿命化修繕計画の対象】

道路施設長寿命化修繕計画では、加賀市が管理する横断歩道橋全2橋およびシェッド全2橋を対象として、長寿命化対策に取り組むこととしました。

【3. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針】

○健全性の把握のための基本的な方針

健全性については、5年に1回の頻度で定期的に点検を実施し、道路施設の架設年度や立地条件等を十分考慮したうえで、個々の損傷状況を4段階で評価します。

また、令和8年度以降に点検を実施する全ての横断歩道橋およびシェッドに対し新技術の活用を検討し、費用縮減や点検の効率化を図ります。

○日常的な維持管理に関する基本的な方針

日常的な道路パトロールや、清掃等を実施します。

《横断歩道橋編》

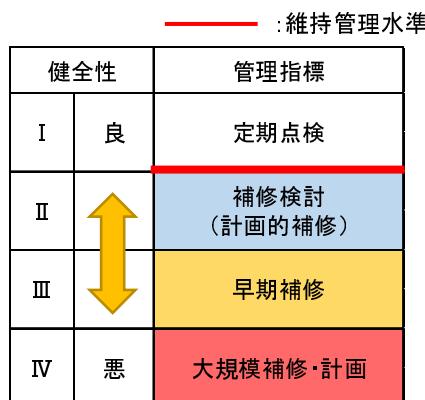
■横断歩道橋の健全性の定義

区分	定義
I 健全	横断歩道橋の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

【長寿命化及び修繕架替え費用の縮減に関する基本的な方針】

- これまでの事後保全型から予防保全型の維持管理に転換することにより、横断歩道橋の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減を図り、ライフサイクルコストの縮減と維持・更新の平準化を図ります。また、令和8年度から令和12年度の5年間における点検、計画・修繕にかかる費用は27.2百万円が見込まれるが、新技術の活用を検討しながら1.5百万円程度の費用削減を図ることを目指します。
- 横断歩道橋の管理指標を定め、計画的に修繕に取り組みます。本計画では、損傷や災害発生時の通行規制及び通学路としての利用等、社会的影響に配慮し、同一の管理指標で管理します。
- 集約化・撤去対象の検討を行った結果、加賀市が管理している横断歩道橋は2施設であり、施設間で5km程度の距離があるため集約は困難である。また、各施設は小学校へのアクセスとなる重要な路線に設置している横断歩道橋のため、集約化・撤去による費用縮減は困難である。周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて、再度検討を行う。

■健全性ごとの管理指標



■道路施設長寿命化修繕計画 施設一覧(横断歩道橋)

施設名(フリガナ)	路線名	架設年次 (西暦)	橋長 (m)	幅員 (m)	箇所	点検年度		点検記録 最終 次回	判定区分	対策内容	対策費用 (百万円)	着手	完了	
						最終	次回							
山中分署前歩道橋	ヤマカブンショマホドウキヨウ	市道D第49・319号線 拡幅部:不明	1982	61.7	1.9	山中温泉西桂木町	R3	R8	III	塗装工など	8.1	R9	R9	
山代小学校前歩道橋	ヤマシロショウガクマホドウキヨウ	市道B第10号線		1974	19.5	1.9	山代温泉山背台	R3	R8	II	塗装工など	2.6	R10	R10

《シェッド編》

■シェッドの健全性の定義

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

【長寿命化及び修繕架替え費用の縮減に関する基本的な方針】

- これまでの事後保全型から予防保全型の維持管理に転換することにより、シェッド2橋の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減を図り、ライフサイクルコストの縮減と維持・更新の平準化を図ります。また、令和8年度から令和16年度の9年間における点検、計画・修繕にかかる費用は49百万円が見込まれるが、新技術の活用を検討しながら3百万円程度、そのうち令和12年度までの5年間では0.5百万円の費用削減を図ることを目標とします。
- シェッドの管理指標を定め、計画的に修繕に取り組みます。本計画では、損傷や災害発生時の通行規制による社会的影響に配慮し、敷地洞門を優先的に管理します。
- 集約化・撤去対象の検討を行った結果、加賀市が管理しているシェッドは2施設あり、施設間で20km程度の距離があるため集約は困難である。また、敷地洞門は緊急輸送道路へのアクセスとなる重要な路線に設置しており、大内スノーシェッドは山間部に位置しており迂回路がないため、集約化・撤去による費用縮減は困難である。周辺の状況や施設の利用状況を踏まえて、再度検討を行う。

■健全性ごとの管理指標

維持管理水準			
健全性		敷地洞門	大内スノーシェッド
I	良	定期点検	定期点検
II		補修検討 (計画的補修)	補修検討 (計画的補修)
III		早期補修	早期補修
IV	悪	大規模補修・計画	大規模補修・計画

■道路施設長寿命化修繕計画 施設一覧(シェッド)

施設名(フリガナ)	路線名	渠設年次(西暦)	橋長(m)	幅員(m)	箇所	点検期間		点検記録 判定区分	対策内容	対策費用		対策予定期	
						最終	次回			(百万円)	着手		
敷地洞門	シエド タモン	市道A第376号線	1977	103	7.0	大聖寺敷地	R3	R8	III	断面修復工など	33.6	R6	R6
大内スノーシェッド	オカチスノーシェッド	市道D第339号線	1983	100	7.0	山中温泉我谷町	R3	R8	III	断面修復工など	10.4	R10	R11